

追加の質問への回答について

Q1. ライテン住宅地は賃貸ですか？また、住民層について教えてください。

A. ライテン住宅地は不動産開発会社により建設され、すべて分譲販売されました。購入希望は地元のランゲンエック村の住民が優先され、残りが近隣住民に販売されました。住民の多くは、(まだ)家族のいない若い地元出身者です。

Q2. ヒートポンプの省エネ効果や他の暖房方式との比較について教えてください。

①エアコンやほかの暖房方法に比べ、どれくらい省エネになるのでしょうか？

A. (エアコンと比較できる)空気ヒートポンプのAPF(年間平均効率)は約3となります。この「3」とは、1kWhの電力の投入に対して3kWhの熱が作られることを意味します。地中熱ヒートポンプは4、さらに夏に地中へ熱を蓄える仕組みを加えると5に達します。太陽光発電を併用すれば、電気代も抑えられます。また、地中熱方式は燃料保管が不要で、機械室も小規模で済み、清掃・メンテナンスの手間もありません。

②温度調整ができないと思うのですが、結局エアコンとの併用になっているのでしょうか？

A. オーストリアの一般住宅では全館温水暖房(床暖房やラジエーター)が主流で、温度調整も可能です。冷房は一般的ではなく、エアコンの併用はありません。

③地中熱ヒートポンプの初期費用と省エネ効果を、従来方式と概算で比較してください。

A. 地中熱ヒートポンプは初期費用は高いですが、運転効率が非常に高く、冷房機能も電力をほとんど使わず実現できます。冷媒を使わず、既存の床暖房設備で冷却が可能です。

(滝川さんによる補足:オーストリアでは新築建物に化石燃料の暖房設備は設置禁止です。

一般的な比較対象は地域暖房、空気ヒートポンプ、木質バイオマスボイラーなどです。新築は断熱性が高く、ヒートポンプに適した低温暖房が主流です。)

Q3. ランゲンエックに移住を希望する人はいますか？

また、オーストリアでも自治体間で人口の取り合いのような現象はありますか？

A. はい、オーストリアでもそうした傾向はあります。特に農村部は都市部より土地が安価なため、移住希望者が一定数います。

ただし、販売されている土地は限られています。

ランゲンエック村は、子育て支援が充実し、住民による NPO 活動も活発で、機能的な村の暮らしが魅力とされています。

Q4. ランゲンエック村では冬に雪は降りますか？除雪は必要ですか？冬も自転車で移動できますか？

A. はい、雪は降りますが、20 年前ほどではありません。夜間に 50cm 程度積もることもあります。

道路や広場は除雪され、自動車は冬タイヤやチェーンが必須です。太陽光発電は雪で約 4～6 週間停止します。

私は基本的に自転車通勤ですが、年に 20～30 日は徒歩通勤になります。

(滝川さんによるその他の補足)

木質バイオマスの地域熱供給では、熱(暖房・給湯)の供給のみを行います。発電は行っていません。

森林では、近自然な混交林における択伐林施業が行われています。